

サタデー コラム

リトアニア蜂蜜、友好の象徴

緊の手当てが必要です。

平成もあと10日となり、令和の新時代を迎えます。今年はゴールデンウィークが10連休で多くの人が休日を楽しみますが、養蜂家にとってこの時期は稼ぎ時、1年間で最も繁忙期とされています。ところが、近年では蜂蜜の生産は激減しています。

岐阜県は県花がレンゲで、かつてはレンゲ王国と称され、レンゲ作付面積は全国1位を誇っていました。しかし化学肥料の普及により稲作の形態が変わり、レンゲの栽培面積は急速に減少しました。今では連休中の風物詩、田園を彩る鮮やかなピンクのじゅうたん、レンゲが満開の風景は遠い過去となってしまいました。業界団体では数々の施策によりレンゲの復活を目指していますが、道程は長く喫

中村源次郎氏

秋田屋本店社長



なかむら・げんじろう 1951年、岐阜市生まれ。博士(医学)。県経済同友会筆頭代表幹事。岐阜南法人会会長。県製菓協会会長。みつばちの家理事長。県養蜂組合連合会長。岐阜商工会議所常議員。岐阜放送番組審議会委員。県フロンティング協会会長。県立岐阜北高校同窓会長。

日本の蜂蜜市場は9割以上が輸入で賄われています。輸入のうち7割が中国ですが、中国産はリスクもあります。蜂蜜愛好家にはチャイナフリーを唱える人も多く、中国産の用途は限られ、供給面で苦心します。一方、蜂蜜の健康への価値は高まり、需要は増え続けています。蜂蜜は天産品のため増産には限界があり、需給バランスは不均衡となつてきています。そんな状況の中、昨年朗報が舞い込みました。岐阜県ゆかりのリトアニアからの蜂蜜輸入です。岐阜県と県商

工会議所連合会(県商議所連)

て、一層経済交流が活発になりました。昨年9月には県と県商議所連による経済ミッションがリトアニアに派遣され、私もその一員として現地に赴きました。杉原千畝氏ゆかりのカウナス市で開催された経済交流会で、現地蜂蜜会社と技術協定、輸入契約に至りました。

リトアニアは自然に恵まれクリーンな環境の下で、長き歴史と伝統を有する養蜂立国です。欧州はじめ世界最先端のミツバチ技術・情報を取り入れるなど国を挙げて養蜂振興に取り組み、生産者も消費者も蜂蜜を知り尽くしている国です。そして何より優良な蜂蜜の生産国であります。安心・安全で本物の蜂蜜、岐阜県とリトアニアの友好のシンボル、リトアニアハニーのデビューが待たれます。